

(12) 馬頭観世音碑

江戸時代は駄馬輸送でしたから、宿駅では一戸当たり一頭から二頭、中付駕者なかつけとじやは三頭から四頭の馬を保持し、駄賃を貰って生活の糧としていました。

正徳二年(一七一二)の資料によると、大内宿から倉谷宿まで二里二町(約九町)の廻米輸送賃は、一駄(二二〇kg)につき四九文となつていました。

馬は貴重な存在であり、このため馬頭観世音は広く信仰さるようになり、町内の各所にも数多くの石碑を見ることができま

す。この碑は中でも大型のものであり、竿石さおいしの高さは一間(約二m)、台石の重さは約三トンと推定され、後背には安政六年(一八五九)五月の刻字も見えます。

(13) 中倉一里塚跡

中倉一里塚は、起点である会津城下「大町札の辻」から七里の位置にあたります。

県道が拡幅されると同時にその形をなくしたと云われます。

